

とらおん



2023年9月16日 NO.647

「御同朋の社会をめざす運動」東海教区委員会 広報部
〒460-0018 名古屋市中区門前町1番23号

東海教区教務所内

TEL 052-321-0028 FAX 052-332-4097

e-mail info@tokai-hongwanji.net

東海教区員弁組 活動報告

員弁組では4年に一度、「門信徒の集い」を開催しています。今年で10回目を数えるこの行事はご本山製作のドキュメンタリー映画「沖縄戦～知られざる悲しみの記憶～」の上映会として、本年の6月4日にいなべ市大安町の大安公民館ホールで開催しました。

昨年2月に大国ロシアがウクライナに軍事侵攻して、戦争の様子が報道やインターネット上で見られる機会が多くなっています。また、ここ数年、尖閣諸島や北朝鮮のミサイル発射、台湾有事など日本を取り巻く情勢も考えさせられることが多くなっていると感じます。

そのような情勢の中、当日は本映画の監督・太田隆文さんをお迎えして、上映後に講演をしていただきました。計画段階では5類移行前でしたのでホール収容人数を半分に設定し、当日は260名のご参加をいただきました。

同施設の別室では、組内寺院を通じて門信徒に戦時資料の借用をお願いして、展示室を設けました。日清、日露戦争から太平洋戦争までの合計120点以上の遺品を含む軍帽、軍用双眼鏡、軍用革靴、多数の勲章、飯ごう、陣中尊号、戦時中の新聞、写真帳などをお借りしました。また、昭和18年の政府による金属類回収令に従って供出した梵鐘にまつわる写真も展示いたしました。戦争を知らない世代の人が多くなってきた今、目で見る形をとり、静かに戦時に思いを巡らせる機会にしたいと考えました。

多くの方にご来場いただき、映画を観て、講演を聞き、また展示室でそれぞれの視点で展示を見ることで、戦争や平和についてあらためて考える機会になったことでしょう。

Contents

員弁組活動報告	P1
こころばなし	P2
声	P3
特集	P4.5
金城六華園	P6
御伝鈔解説	P7
お坊さんの書棚	P8



『優しさと厳しさ』

麻布 浩明（中勢組善福寺）

親鸞聖人はお念仏のはたらきを「摂取不捨」と示されました。さらに「摂というの
は、逃げるものを追いかけてすくい取るという
意味です。」と説明書きが加えられています。
「背中を向けて逃げている者こそを追いかけて
救う。」これがお念仏のはたらきなのです。
ところが「必ず救って下さるのなら、私は何を
したってかまわないじゃないか。」と中には考
えてしまう人もいるかもしれません。聖人は門
弟にあてたお手紙の中で「酔いが醒めぬうち
にお酒を勧めたり、毒が消えないうちに毒を
勧めたりするようになりますよ。薬があるから
といって、毒を好むようなことは、大変あさ
ましいことです。」と誤ったお念仏の理解を強
く戒めておられます。ですから阿弥陀さまの
お心には優しさだけではなく、厳しさも込め
られているのだらうなど。そのように感じた
出来事がありました。

あるご法事の時の出来事です。5歳の女
の子とお母さんと2人でのご法事でした。
お勤めの拝読後、コーヒーとイチゴのショ
ートケーキを出して頂きました。普段なら
お話をしながらいただくのですが、その日
は次のご法事の時間が迫っていたので、い
ただく時間がありませんでした。「はてさて
どうしたものか。」そう考えている時にお母
さんの携帯電話が鳴り、その場を外されま
した。その時ふと「そうだ。この子にケーキ
を食べてもらおう」と思い、「ケーキ食べて」
とその子に差し出しました。すると顔を横
に振って断られました。



しかしもう一度「お母さんには私の方
から言っとくから。お願いだから食べて」
と言いますと、満面の笑みで「うん！」
と。そして美味しそうにケーキを食べ始
めた時にお母さんが戻ってこられました。
最初に私の方を見て「お待たせしまし
た」と。次にその子を見た時にとても険し
い顔をされました。これはまずいと思
い、「大変申し訳ありません。いただく時間
がありませんので、私からお願いしてこ
の子に食べてもらっているのです。」と言
いますと、表情を和らげ「〇〇ちゃん。お
坊さんからケーキもらって良かったね」
と優しい言葉をかけられました。その後
も少しお話をしましたが、時間があまり
なかったのでお家を後にしました。

今思い返してみますと険しい表情を和
らげ「ケーキもらって良かったね」という
優しい言葉の中には、「人のものを欲しが
ってはいけないよ」という思いがあっ
たのかなと感じています。子どもを育て
るということに関して、愛情や優しさ
だけでは育っていかないものです。もち
ろん、愛情が根底にあることは大切で
すが、ときには自分のしていることを
振り返るという厳しさを持って子ども
に接することが大切な場合もあると思
います。

この私を必ず仏にならしめると誓われ
た阿弥陀さま。だから何をしてもかま
わないということではありません。必ず
救うからこそ、そのはたらきには私の
ありようを見せて下さるという厳し
さが備わっているのです。「どんなこ
とがあっても、必ず救いますよ。その
ことに気づくことによって、尊い人
生を歩んで下さいね。」と私に呼び
かけ通しの阿弥陀さまです。だから
こそ私の拠り所となってくださり自
分自身のあり方や社会のあり方を
厳しく見つめて生きていくことができ
ています。

『変わらずそこにあること あるもの』

今年も夏休みにお寺でお泊まり会をしました。5月の連休が明けたころから「いつから申し込みますか」という嬉しいお問い合わせもあり、こちら楽しみに準備を進めました。

いつも寺子屋に来ている子もいれば、初めてお寺に来たという子も、あっという間に打ち解け合い、一緒にお寺ビンゴやカードゲームをしたり、プール遊びで結託して水風船を投げたり。座布団を3枚並べてバスタオルを敷いた寝床を本堂の好きなところに並べ合って、いつまでもお話が尽きなかったり。次の日の掃除の時間にはこちらが何も言わなくても、一致団結して階段を水で流しながら、それぞれは汗を流しながらお掃除していました。（水を使うお掃除が一番人気！）

春に東京へお引越しをして、その東京から参加してくれた姉妹がいました。その子たちが来るから、と周りのお友だちも親御さん方もずいぶん早くから楽しみにしていました。久しぶりの顔合わせでしたが、まったくブランクがない様子で、当たり前と一緒に過ごしていました。

無事に帰ったというご報告が親御さんからあったときに「転勤族で親戚もない土地で、まるで実家のように頼れるお寺でした。子どもがお友だちと集まる場所がお寺で、安心でした。」とお礼のメッセージが届きました。こちらこそ、変わらずに阿弥陀さまとともにお迎えできるお寺であれるよう、整えて待っていよう。そう改めて気づけたメッセージでした。

『魔法使いとの冒険』

息子が通う幼稚園への送り迎えをときどきしています。晴れの日には自転車の後ろに息子を乗せて風を感じながら走るのも気持ちのいい時間です。道中では幼稚園であったことや、好きなもののこと、最近できるようになったもののことなど色んな話をします。

自宅と幼稚園の間には2箇所信号があります。赤信号に引っかかった時には通り過ぎる車を見ながら「トラックが通るね」とか「今度はパトカーだよ」とか言っていますが、少し長めの待ち時間になると息子も退屈を感じるようです。

そんな時は「信号に向かって『青になれー』と言ったら魔法のように信号が変わるかもね」なんて話をしていたら、息子も調子を合わせて信号待ちの度に「青になれー」

と言い始めました。ちなみに父親である私はちゃんと交差する信号が赤に変わったタイミングでだけ「青になれー」と魔法を使うので成功率100%です。

ある日も同じように信号待ちをしていると、息子が「青になれー」と大きな声をあげました。ちょうどタイミングよく信号が青に変わり自転車を漕ぎ始めましたが、ふと見上げたその信号の先には抜けるような青空が広がっていました。大魔法使いとの心躍る冒険のひと時でした。



「人工知能 (AI) と寺院活動」

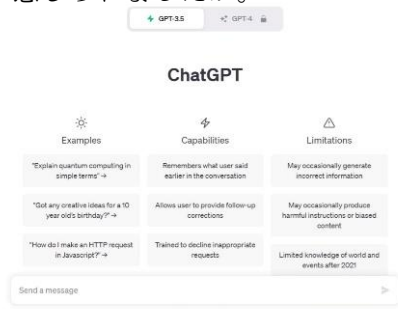
■対話型 AI とは

なもあみだぶつ 慈悲の奇跡
光となりて 心を照らす
闇さえも包み やすらぎを与える

生と死の輪廻 巡りゆく
なもあみだぶつの愛が導く
心に慈悲の花が咲く

「なもあみだぶつ」をテーマにしたこのポエムは、今話題の生成 AI「チャット GPT」がつくったものです。「チャット GPT (ChatGPT)」とは「AI 技術を活用した対話型のサービス」です。インターネット上の膨大な情報をもとに、会話形式で質問に答えてくれたり、歌詞や小説の執筆、企画書や小論文の執筆をしてくれたり、さらにはプログラミングなどにも対応しているそうです。無料で利用できる対話型サービスには「チャット GPT」の他にも様々なサービスがあります。

このポエムの作成方法は「なもあみだぶつをテーマにポエムを作って」と AI(チャット GPT)に指示します。指示に対する回答は瞬時に行なわれます。その後「もっと短くして」「もっとやわらかい表現で」など数回のやり取りをパソコン上で行ない作られたものです。みなさんはどのように感じられましたか。



チャットGPTの画面、Send a messageの所に知りたい事柄を記入して指示をする。

■対話型 AI の利用法

これらの無料で利用できる対話型サービスを用いて、日々の活動のヒントをもらうことも可能です。例えば「今晚の献立何がいいかな」とか「手土産によるこばれる 3000 円くらいのものを教えて」などを尋ねると、文字入力に対話しながらヒントを提示してくれます。「妻の機嫌を取るためにはどうしたらいいですか」なんて質問もできます。

従来の検索方法では該当 web ページが羅列されるだけでした。対話型 AI は直接対話を重ねることにより、知りたい情報により近づくことができます。自分の頭だけで考えていたのではマンネリになりがちな所に、新鮮な視点を与えてくれることもあります。

また、日常で使うことは少ないかも知れませんが外国語の翻訳にも活用できます。例えば本願寺ウェブサイト内の英文

「On the precincts of Hongwanji are the Amidado (Hall of Amida Buddha), Goeido (Founder's Hall), Karamon, Shoin, Hiunkaku and other structures, many of which have been designated as National Treasures and Important Cultural Assets of Japan. In addition, the Hongwanji received the designation as a UNESCO World Heritage in 1994 as part of the Historic Monuments of Ancient Kyoto.」

を「和訳して」と指示する（原文をパソコン上でコピーして貼り付けて、「和訳して」と続けて入力する）と、

「本願寺の境内には、阿弥陀堂（阿弥陀仏堂）、御影堂（開祖堂）、唐門、書院、飛雲閣などの建造物があり、その多くが日本の国宝や重要文化財に指定されています。さらに、本願寺は 1994

年に古都京都の歴史的な文化財群の一部として、ユネスコの世界文化遺産に指定されました。」(チャット GPT 原文ママ) と、瞬時に和訳してくれます。

多少おかしな日本語になることもありますが、英語を勉強している学生さんにはありがたい事かもしれませんね (学校教育現場での AI 利用の是非は、現在まさに議論が重ねられています)。

また逆に日本語を各国の言語に翻訳することももちろん可能なので、外国の方とコミュニケーションを取る場合、例えば「お手洗いはこちらです」「敷地内は禁煙です」「本堂は土足禁止です」のような注意書きを翻訳してもらい、それを掲示するといった使い方もできますね。

■AI とは無関係でいられない現代社会

AI が得意とするところは、文章作成補助や情報収集、問い合わせへの応答自動化、仕分け・分類など、従来人間が手作業で行い時間がかかっていたことを、瞬時に効率的に行なってくれるところ です。

そのため人手不足の解消や業務の効率化をめざすため AI を活用すべく検討を進めている企業・自治体が増えているそうです。実際桑名市では、2026 年度に新しく開校する市立の小中一貫校の校歌を AI が作詞作曲するという事で大きな話題ともなっています。

■AI を寺院活動に利用できるか

この新しい技術は寺院活動にも応用ができるでしょう。先ほど紹介したものは無料のサービスを利用するならという前提での話でしたが、もし技術を持っている人がその気になって作れば、例えばこんなシステムも作れそうです。

◎院号・法名作成補助

お聖教のどの部分からの引用かを明示したうえで、いくつか候補をあげてもらおう。

◎仏事に関する質問 24 時間受け付け

コンピューターは、休みなく働けるので、利用者の時間を縛ることなく、様々な質問に答えてくれることが期待されます。

◎法話原稿の作成

テーマを指定したうえで法話原稿を作ることも可能でしょう。引用なども的確に、あるいは今まで気が付かなかった視点からのアプローチも出来そうです。

■便利だけでは済まされない問題

これからの (あるいはもうすでに) 社会活動は AI が必須になってきます。そのなかで寺院活動だけ無関係ではいられないと考えられます。

しかし、便利だからと言ってすべてが信頼できるものではありません。冒頭の AI に私のお寺のことを尋ねたら、「お東」のお寺として紹介をされることもありました。「築地別院の参拝方法を教えて」と尋ねると「本堂に入る前に、鈴を鳴らしてから手を合わせ、お参りします。手を合わせる際は、軽く一礼してから額に手を当てるようにします。」(チャット GPT 原文ママ) と、間違ったアドバイスをされたこともありました。

私たちは「むちゃくちゃなことをいっているなあ」と判断できますが、これらの誤った情報を鵜呑みにしてしまう人もいるのではないのでしょうか。

AI の導きだした答えがいつも正しいとは限りません。信頼できない、間違った情報もたくさん発信され続けています。だからこそ私たちは、お互いに生きたコミュニケーションをきちんと取り、正確な情報を発信し続ける必要があると強く感じる次第です。

*本稿で利用したチャット GPT は 2023 年 8 月現在のものです。

金城六華園近況報告 施設長 田島希世弘

2021年4月から施設長に就任して3年目を迎えました。就任した当時は、新型コロナウイルスは感染力が強く、クラスターが起きると業務に大きな支障を来すことや、重症になる可能性もあるということから、職員は罹患者を出さないように懸命になって、疲弊していた時期もありました。

子どもたちの生活も、発熱者が出れば施設内でもマスクをする、外出時には小まめな手指消毒、屋外ではマスクをする生活を強いられ、子どもたちの生活は大きく変化していました。徹底した感染予防をしても罹患者が出て、隔離部屋の準備をして10日間の隔離（現在は5日間）、濃厚接触者は7日間の隔離（現在は定義なし）で、隔離期間が終了する前に新たな罹患者が出て隔離期間が延長される繰り返しの時期もありました。長いと1ヶ月近くも登校できない子どもがおり、ストレスもかなり溜まって普段は聞き流せたことでも些細なことでも口論になり、ぎくしゃくした空気の時期もありました。

多くの企業や別院関係者の方々には心配のお声やご寄付をいただき、食の面や、余暇対策での玩具、子どもが楽しめる行事企画など実行できて、職員も子どもも励まされ乗り越えることができたと思います。

今年5月からは5類に引き下げられたこともあり、コロナ前の生活を取り戻すためにまず職員はマスクを外すことから始めました。これまで勤務中は常にマスクを着けていたため、この3年間で入所してきた児童はマスクを外した職員の顔を初めて見ることになり「先生の顔初めて見た」と話す子どもがおりました。今でもマスクを外すことで顔を見られることに抵抗を示している子どももおります。感染予防とはまた違った意味でのマスク着用なので、時間は掛かるとは思いますがマスクを外した生活に戻れるよう、職員はきっかけ作りをしております。

これまでは慎重になっていましたが、今夏は一泊二日で篠島へ旅行、スポーツ大会の参加、企業からの招待行事の参加など、コロナ前にあった行事へ積極的に参加しております。たくさんの方々からのご支援、ご協力があり子どもたちも笑顔になることが本当に増えたと思います。今春にリニューアルした金城六華園のホームページにはブログがあります。日常の生活や子どもたちの笑顔を、ブログを通して皆様に伝えていくことができると思っております。

皆様方からの温かいお言葉やご支援で職員・子どもはとても励まされております。お心遣いありがとうございます。



ホームページ



ブログ



第三幅 下巻第一段「師資遷謫」^{ししせんちやく}

この第三幅は6つの図を用いて3つの場面が描かれます。1.御伝鈔下巻第一段【師資遷謫】2.第二段【稲田興法】3.第三段【弁円济度】です。では、師資遷謫についてです。この場面は4つの図で構成されます。1.念仏停止 2.公卿僉議 3.法然聖人配流 4.親鸞聖人配流です。師資とは、師匠とその後を継ぐ資質のあるものということで師匠とその弟子を指します。この場合、師匠が法然聖人でその後を継ぐ資質のあるものが親鸞聖人です。遷謫とは、罪を責め流罪によって別の土地に移すということです。師資遷謫は4つの図でもって法然聖人と親鸞聖人が御流罪になられたということを表しています。



1 図（下） 2 図（上）（本願寺名古屋別院蔵）



3 図（下） 4 図（上）（本願寺名古屋別院蔵）

【1図】ここは京都御所です。そもそも御流罪の背景には専修念仏の停止ということがありました。1207年2月上旬（承元元年）後鳥羽上皇により「専修念仏停止」の院宣が出ます。専修念仏とは念仏一つで浄土往生が決定するのであって、浄土往生にあたりその他の修行は必要ないというみ教えです。専修念仏停止の背景には南都北嶺（南都：奈良興福寺、北嶺：比叡山延暦寺）による数回に及ぶ訴えが朝廷にありました。当時の仏教界ではこの二つの寺院が強大な権力を持っていたのです。

【2図】場所は先ほどと同じ京都御所です。この図は公卿僉議と呼ばれる場面です。公卿とは大臣等の位が高い役人。僉議とは評議をする。ということで、この場合は政府高官たちによる罪人に対する処罰を決めるための評議会ということになります。御簾の前に座っている黒い衣の方々は公卿たちです。御簾の中には土御門天皇がいらっしゃるようですが、そのお姿は描かれていません。それは当時、天皇や上皇という位の高いお方を描くのは失礼に当たるといふ風習があったためです。

詮議の結果：専修念仏は停止とする 専修念仏停止を破ったとして

死罪：善綽房^{ぜんしゃくぼう}/性願房^{しょうがんぼう}/住蓮房^{じゅうれんぼう}/安楽房^{あんらくぼう} 流罪：法然聖人^{ふじいのもとひこ}（藤井元彦）土佐国幡多^{ふじいのよしざね}/親鸞聖人^{ふじいのよしざね}（藤井善信）越後国国府
 当時世俗を離れ出家をしていた僧侶を世俗の法律でもって裁くことはできませんでした。それ故、僧侶を裁くときには、僧侶という身分を奪い俗人として裁きます。そのため法然聖人も親鸞聖人も俗人としての名前が与えられたのです。

その後、親鸞聖人はご自身のことを僧侶でも俗人でもない愚禿釈親鸞と名乗られるのです。親鸞聖人はこの時のことを教行信証 化身土文類の後序にこのようにお示しです。

「天皇も臣下の者も、法に背き道理に外れ、怒りと恨みの心をいただいたそこで浄土真宗の一宗を興された祖師源空上人をはじめ、その門下数人について、罪の内容を問うことなく、不当にも死罪に処し、あるいは僧侶の身分を奪って俗名を与え、遠く離れた土地に流罪に処した。わたしもその一人である。だから、もはや僧侶でもなく俗人でもない。このようなわけで、禿の字をもって自らの姓としたのである。」（『顕浄土真実教行証文類』 現代語版 641 頁【一一七】）

法然聖人とその門弟が死罪や流罪とされたこの悲惨な大事件は「承元の法難」と呼ばれています。

【3図】こちらは法然聖人配流と呼ばれる図です。法然聖人が流刑地である土佐国へ向けて吉水の禅坊を出られるお姿が描かれた図です。

【4図】親鸞聖人配流の場面です。実は、この4図には親鸞聖人のお姿は輿にお乗りになっているということで描かれておりません。なぜ親鸞聖人は描かれていないのでしょうか。覚如上人は親鸞聖人が罪人として俗人にさせられたお姿も罪人として流刑地に出発されるお姿もとても描くことなどできなかったのではないのでしょうか。それほどまでに親鸞聖人のことを敬われお慕いされていたのでありましょう。こうして親鸞聖人は流刑地である越後国へ向かわれました。

大竹章和（桑名組間光寺）

『世界で一番やさしい会議の教科書』

榎巻亮【著】日経BP【出版】

「三万時間」

・・・あなたが一生涯で会議に費やす時間だ。

本書はこのような導入から始まります。タイトルの通り、会議を進めていくにあたってのノウハウや心がけが詰まったものですが、「教科書」というしつらえではなく、小説風の切り口で描かれています。

入社2年目の女性会社員・鈴川葵が、これまで出たことのなかった「会議らしい会議」に出席します。しかし議論の論点をとっちらかしてばかりの課長、内職ばかりの主任・・・。せっかく会議をしたのに何を決めたのか、誰が何をするのか不明確なままで話し合われたのに放置されていく業務たち。家に帰った葵が愚痴をこぼすと、コンサルタントの父が改善改良のアイデアを仕込んでいきます。

世の中によくある会議本は、日常的な会議で使

いこなすのは難しいフレームワークなどが語られていますが、本書は

- ・「決まったこと」、「やるべきこと」を確認する
- ・会議終了時の状況のイメージを共有してから開始する
- ・議題毎の時間を提示する

といった日常会議でも使えるものとなっています。僧侶が会議にかける時間は三万時間もないかもしれませんが、会議の主催でなくても使える技術があります。なにより参加者全員が会議に関わることで、組織の体質が変わっていきます。私たちは生きていれば何かしらの会議に携わります。ストレスの少ない会議に参加したいですね。



『仏教の大東亜戦争』

鵜飼秀徳【著】文藝春秋【出版】

本書は、日本が欧米諸国と大東亜戦争（太平洋戦争）をしていた頃の「仏教界と戦争との関わり」が主に紹介されています。不殺生（生き物を殺してはならない）を戒とし、慈悲や寛容を説く立場の仏教者が、戦争にどのように加担していったのか、この1冊から学びを深めることができます。

著者は、仏教界が政府に恭順していく発端に、明治維新後の廃仏毀釈や、新政府による寺社領の召し上げとなった上知令、肉食妻帯を公認した僧侶の俗化政策を挙げます。政治圧力を緩和するために仏教界から国家への献金運動が発展していき、結果として富国強兵や植民地政策に加担することになったといいます。

戦争においての仏教者の役割が明確になっていったのは日清戦争からで、僧侶がはじめて大陸に進出し、上海や北京に寺院（別院）が建立されて大陸布教の拠点となりました。戦地における僧侶（従軍僧）の役割は、軍隊の慰問、戦死者の慰霊、捕虜の撫恤（捕虜に対する慰問、説法）でした。

日清戦争を終えて日露戦争の頃になると、各宗

の学僧が打ち出した戦争肯定の教義を根拠にして仏教界は一層、戦争加担を強めていったといいます。

昭和初期には、仏教の天皇に対する忠孝思想を表した「皇道仏教」が体系化され、「日本仏教は天皇あってこそである」「天皇は阿弥陀仏である」といった教義の曲解が日中戦争から終戦まで続きました。皇道仏教が浸透すると右傾化する僧侶が現れ、戦地に派遣された僧侶は戒を破ることも厭わず、戦闘に参加しました。

本書について著者は仏教界の逸脱した過去を暴いて、断罪することが目的ではなく、国家と宗教の関係性を学んで、真の宗教のあり方について思いを深めてもらうことだと言っています。仏教界と戦争との関わりに驚きと悲しみがありますが、ぜひ一度、手に取って読んでみてください。

